

ニューロリンクカーズ：マイクロボッツ

2021/4/15
第二稿

作者名：西村龍太郎

住所
電話番号
電子メールアドレス等

登場人物表

寺島ルータ (12)	主人公。勇気がある。
寺島ケン (12)	ルータのいところ。頭良いけど嘘つき。
ナイジェル・ライト (12)	ルータの友達。共同研究している会社の子。優しい。
レイチェル博士 (22)	技術アドバイザー。美人お姉さん。
ルータの母	寺島電工の社長。
研究員 A	
研究員 B	
研究員 C	
大統領	
警官 A	

「ニューロリンカーズ」・慷慨・あらすじ

ロボット製造会社「テラシマ電工」は、直接神経接続で“憑依”するように動かせる極小サイズのロボットを開発中だった。

社長の子供で主人公の寺島ルータは、会社の研究室で備品のロボットを使って遊ぶ小学6年生の男の子。4月1日のある日、親友のケンとナイジェルの3人と一緒にロボットで遊んでいたルータは、備品のロボットの何体かが無くなっていることに気づき、無くなったロボットの1体に接続してみる事にする。

すると遠隔起動したロボットの視界から見えてきたのは、殺人計画を企てる男の会話と、盗まれたロボットを改造した暗殺用ロボットだった。母親や警察に相談するも信じてもらえなかったルータ達3人は、自分たちの力だけで陰謀を阻止する為に立ち上がる。

最初の1ページ。

宇宙空間をバックに、槍を持った巨大なロボットが動いている。

そのロボットが頭上から来る大きな影に覆われ、上を見上げる。

次のページ。

巨大な指先に摘み上げられるロボット。

博士「なにこれ」

白衣の女博士が小さいロボットをつまみ上げて眺めている。バタバタ動いているちびロボット。

背景の宇宙はポスターだった事がわかる。後ろには作業着の人達が数人いる研究所内。

赤い髪の少年、ルータ（12歳）が慌ててそれを取り返しに来る。

ルータ「あ！それ僕の！」

博士に駆け寄っていくルータの後ろで、ヘッドセットを外すナイジェル（12）とケン（12）。ナイジェルが博士を見て眩く。

ナイジェル「誰あれ？　すごい美人……」

ケン「父さんの知り合いで技術アドバイザーみたいな事やってる人だよ。あとオレの彼女」

ナイジェル「えっ、大人のお姉さんと付き合ってるの!？」

じゃあもうおっぱい触った??とドキドキ顔で聞くナイジェル。当たり前だろ。と偉そうな顔で返すケン。どう見ても嘘。

その前でルータが興味津々の博士に技術説明をしている。

鳥に食べられないようにカラフルにしてる事。虫に襲われないように武装してる事など。

ルータ「小さいロボットを使って更に小さいロボットを作るでしょ。それを繰り返して超小型ロボットを作ったんだ」

博士「ふうん」

ルータが振り返って、ナイジェルのヘッドセットを指差して見せる。

ルータ「あれがそのニューロリンクデバイスだよ」

こんにちはと、ナイジェルたちも博士の前に来て挨拶する。

ルータ「これで直接神経接続してこの小型ロボットを動かすんだ」

ケン「どんな所にも侵入し放題だぜ。お姉さんの昨夜の様子もバッチリ録画済みさ」

博士「えっ」

驚いて顔が赤くなる博士。呆れるルータ。

ルータ「嘘だよ。今日エイプリルフールだから、ケンの奴いつにも増して嘘つきなんだ。録画機能も付けたいんだけどね」

なんだあと安心する博士。ケンの嘘がわかってナイジェルはムッとする。

話しているルータ達の方へ、ルータの母が近づいてくる。赤髪のイギリス人。

ルータ母「ルータ。今日お母さん5時には出かけるから、大人しくしてるのよ。ここから出ないで待っててね」

ルータ「うん」

ルータ嫌そうに返す。

ルータ母「この子達、放っておいたらすぐイタズラするのよ」

博士「まあ」と笑いながらルータ母と出ていく。

ルータ達に手を振って去る博士。

母、研究室から出る途中、研究員Aに「頼んだわ」と声をかける。「任せてください」と応じる研究員A。

ナイジェル「今日留守番なの？」

ルータ「うん。おかあさん、なんかの会食行くんだ。大統領が来るんだって」

ケン「すげえ！」

ナイジェル「じゃあ今日はずっと実験できるね」

ルータ「うん。機動テストの続きやろう！」

左腕のデバイスを見ているケン。眉を寄せる。

ケン「あれ？ オレたちの使える機体ってこんなに少なかったっけ」

ルータ「え？」

ルータも自分のデバイスを見る。立体ホログラムで出る並んだロボットの一覧を指でスワイプする。

ルータ「まさか。もっと居たはずだよ」

ナイジェルもルータのデバイスを覗き込む。

ナイジェル「本当だ。モスキートとかライトバーンとか、他にも何体が無くなってる」

ケン「父さんが何かに使ったのかな」

ルータ「それなら何か言ってくれるはずだよ」

ナイジェル「とりあえず接続コード覚えてるやつにリンクしてみたら？」

ルータ「そうしよう」

ルータ、ナイジェルのしていたヘッドセットを装着する。

ケン「ほとんど接続器が動いてないっぽいけど、一体だけ行けそう」

ルータ「よし、いこう」

接続用の椅子に座り背をもたれるルータ。ヘッドギアを変形させると目元が隠れる。

ルータ「インターリンク！」

左腕デバイスのスイッチをパチンと倒す。

意識が飛ぶ。

2.

○暗い部屋

目を開けると暗い部屋に居る。

一人称視点で周りを見渡すと、バラバラになったロボットが散らばっている。

ルータのインターリンクしたロボットは、腕に溶接用のバーナーが付いている作業機体。

周囲を確認して、そこが机の上だという事がわかる。

ルータ「なんだここ」

ナイジェル「発信器が外されてるから場所がわからない」

ルータ、解体されたロボット達を見る。

ケン「それオレたちのロボットだな」

研究室ではナイジェルとケンがパソコンのモニターを見て、ルータの視界を共有している。

ルータ「なんでバラバラにされてるんだろう」

ルータの体は椅子の上で寝ていて、声だけはその体から出ている。

ルータのロボット、机の上を歩いて行くと、自分と同じサイズの人影が現れる。

真っ黒に塗装されたロボットが立っている。腕に槍のようなものが取り付けられている。

ルータ「なんだろうこれ。……新しいロボット？」

モニターを見ているナイジェル。その画面にはルータが見ているロボットの上に「999. bloodlance」とAR表示。

ナイジェル「接続コード999だって。9で始まるやつなんて見た事ないよ」

ルータ、謎のロボットの背面を見る。薄い透明の羽がついている。

ケン声「見ろよその羽、モスキートのだ」

ナイジェル声「いろんなロボットを合体させたのかな」

槍のような装置を見る。透明な筒の中に毒々しい色の液体が見える。注射器のよう。

ルータ「なんか嫌な予感がする」

ドシン。

振動で、机の上の部品が揺れる。

ルータ「誰か来た」

ケン声「隠れろ」

駆け出すルータのロボット。

遠くに聳え立つドールハウスが見える。

ドシン、ドシン。足音が近づいてくる。

ドアが開き、大きな男が部屋に入ってくる。

電気が点く。男の顔は見えない。

男「ああ、口座は確認した。今夜の会食も予定通りだ。」

机に近づく男。

男「分かってる。大統領を針でつついたら俺の仕事はおしまいだ。だがロボットは渡さない」

ドールハウスの中で隠れるルータ。窓から外を伺う。男は大き過ぎて顔が見えない。

ナイジェル声「大統領？ 何の話してるんだろう……」

男が近づき、ドールハウスを影が覆う。

電話している男の影。

男「証拠を残したくないからな。終わり次第破壊する」

ルータのロボット、身を低く屈めて、窓の下を移動する。

男「これが済んだらお宅とは他人同士だ。あんたは邪魔者を消せて、俺は金を手に入れる。それで満足だろ」

机の上を見る男。

男「ん？」

ロボットが無くなったのに気づき探し始める。

男「どこ行った……」

ドールハウス、窓と窓の間の柱に背中を付けて聞いていたルータのロボット。

気付かれたのが分かって身を硬らせるような格好になる。

ケン声「まずい、気付かれた！」

男「いや、問題ない。また後でかけ直す」

男視点でドールハウスに目を向ける。

ナイジェル声「逃げよう！」

走るルータのロボット。

窓に巨大な眼球が映る。

出口に向かうルータ。

ドールハウス全体が揺れる。屋根が外れる。

逆光で影になった巨大な人影が空を覆う。

男視点でドールハウスの中を駆けていくルータのロボットが見える。

ルータのロボットがドアから飛び出す。

飛び出した先、断崖絶壁。

勢い余って机の上から落ちるロボット。

床に直撃するが、物理法則が違うので無傷。

逆光の男の影が捕まえようと迫ってくる。

ケン声「逃げ！ 出口だ！」

部屋の出口から外の廊下が見える。

駆け出すロボット。

ナイジェル声「あと少し！」

廊下に出られる。と思った次のページ。

大ゴマー面に牙の並んだ巨大な口。

出口のそばで寝ていた猫に食べられるルータのロボット。真っ暗な喉の奥に飲み込まれて行く。

3.

○研究所

ルータ「うわああああああ！！」

ルータの顔ドアップ。目を見開いて慌てて接続解除したヘッドセットを外す。冷や汗が飛びまくっている。

呆然とするルータ。髪の毛ボサボサ。

ルータ「バカねこめ！」

ナイジェル「あーあ」

ケン「あのねこって、みゃーこ？」

ナイジェル「じゃあこの建物の中だね」

ルータ「何だよあいつ！」

混乱した顔で話し合う3人。

ナイジェル「大統領を針でつつくって言ってたよ」

ケン「終わり次第壊すってな。オレたちのロボット、暗殺用に改造して使うつもりだ。大統領を殺すために！」

ルータ「絶対それだよ！」

ナイジェル「どうしよう！」

ケン「みんなに知らせなきゃ！」

4.

○研究室 別の場所

大人の研究者達が驚いた顔。

研究者B「大統領が暗殺されるって！？」

そうなんだよ！とケン、ルータ、ナイジェル。各々違う身振り手振りでワチャワチャ伝えようとする3人。

顔を見合わせる大人達。

次のコマで爆笑している。

研究者B「ハハハ！そりゃ大変だ、FBIを呼ばなきゃな」

ケン「嘘じゃないよ！」

研究者C「はいはい。おじさん達忙しいからもう行くよ。来年も楽しみにしとくから」

研究者B「うん、去年のよりは面白かったよ」

ルータ「ほんとなんだって」

帰って行く研究者達。がっかり顔で取り残される3人。

ルータ「ほんとなのに……」

怒るケン。困るナイジェル。焦るルータ。

ケン「なんだよもう！」

ナイジェル「やっぱり証拠がないとだめなんだ」

ルータ「こんな事してる間に大統領が殺されちゃうよ！」

ケン「あのロボットをなんとかしなきゃ！」

ナイジェル「接続コード覚えてるよ」

ルータ「それだ！」

ケン「よし。ルータ達はあの暗殺ロボットにインターリンクして誰にも接続できないようにして。オレは他の大人に説明してくる！」

ルータ「わかった！」

ナイジェルとルータ。ケンの二手に分かれて駆け出す。

椅子に座ってヘッドセットを着けるルータ。

パソコンの前に座ってオペレーター用のヘッドセットを着ける
ナイジェル。

ルータの顔前のAR表示に接続コード「999」の文字。

ルータ「blood Lance. インターリンク！」

腕のデバイスのスイッチを倒すルータ。

意識が飛ぶ。

○部屋 机の上

目覚めるルータ。片手に注射針のついた黒い暗殺ロボットにな
っている。

明かりのついたさっきの部屋。

男の姿はない。

ルータ「よし。入ったよ」

ナイジェル声「あの人、居なくなったね」

テーブルの端までくるルータ。断崖の下を覗き込む。

ルータ「みゃーこもない。今のうちに逃げよう」

パソコンのモニターを見ているナイジェル。

ナイジェル「あ。今、そのロボットに誰かが接続しようとしてる」

ルータ「あの男だ」

ナイジェル「何回か接続しようとしてたけど、もう諦めたみたい」

ルータ「危ない。あと少しで接続できなくなるどころだった」

ルータ、テーブルから飛び降り、床に着地する。

ルータ「これ羽あるから飛べたね」

ナイジェル声「そうだね」

透明な羽をパタパタ動かして準備運動するルータ。

ナイジェル声「待って、別のロボットが動いてる」

ルータ「え？」

ナイジェル声「これも盗まれてたやつー。《メタルゴライアス》だ！」

ルータの背後に、巨大なロボットが着地する。ブラッドランスより10倍くらい大きい。

敵のロボットが襲いかかってくる。

ルータ「うわあ！」

ルータ。羽を動かし飛んで逃げる。

敵のロボットは歩幅が大きい。腕を振り回しながらドスドスと迫ってくる。

ルータは叩き落とされないように低空飛行で部屋から飛び出す。

6.

○廊下

巨大ロボットから逃げるルータ。

明るいいりノリウムの廊下。

巨大ロボットの腕に打ち落とされるルータのロボット。

ルータ「わ！」

床に転がったところを大きな手で掴まれる。

ルータ「くそお」

廊下を走りながら腕のデバイスに叫ぶナイジェル。腕のデバイスからは立体映像。

ナイジェル「ライトバーんだ！」

ルータ「くらえ！」

ルータのロボット、注射針の付いていない方の腕から電撃を放つ。

電撃を食らって敵の巨大ロボットが怯む。

掴んでいた手を振り解き、床に落ちるルータのロボット。

走って敵から離れようとするが、敵のロボットはまた動き出し迫ってくる。

飛び立とうとするが間に合わない。

巨大な手が迫る。

ルータ「うわああああ！」

掴まれる寸前、フェリー船くらいの巨大なスニーカーが敵のロボットを蹴り飛ばす。

7.

○廊下

ロボットを蹴り飛ばしたナイジェル。

這いつくばってルータのロボットを見る。

ナイジェル「ルータ大丈夫？」

黒いロボットがナイジェルに手を振る。

8.

○研究所内

ケンが大人に説明している。小さいコマが連続しているんな大人と話している。

誰も信じてくれず肩を落とすケン。

研究室

疲れて帰ってきたケン。

ナイジェルが居ないのに気づき腕のデバイスに声を掛ける。

ケン「ナイジェルどこ？」

廊下

ナイジェル「あ、ケン。いま黒いロボットを捕まえたよ」

研究室

ケン「やったな！」

ケン、モニターを見て、「ん？」と訝しむ顔をする。

ケン「もう一体動いてるぞ」

9.

○廊下

ケンの声に驚くナイジェル。

ナイジェル「えっ？」

動きで困惑を表すルータのロボット。

ケン声「誰かがランスロットに接続してる。あの槍を持ったドリルのやつー」

10.

○研究室

ケン声「ーこの部屋のだ！」

ケンの声のオーバーラップ。

冒頭でつまみ上げられていたロボットが、寝ているルータに迫って行く大ゴマ。

ロボットがルータの顔に飛び乗り、ドリルの付いた槍を振りかざす。

ケンがそれに気づき、丸めた雑誌で叩く。

ルータのロボット。本体の顔を叩かれ、痛っ、と反応する。

接続解除したルータがヘッドセットを上げると、体の上を駆けていく小さいロボットを見て叫ぶ。

ルータ「わわうわわ！」

ジタバタ体を払い、急いで椅子から離れるルータ。

床に落ちたロボットを、ケンが雑誌でバンバン叩く。

ルータのスニーカーがロボットを踏んづける。

潰れたロボット。

ルータ「やっつけた」

ほっとしたケン。パソコンの画面を見て青ざめる。

ケン「やばい」

モニターに、接続コード「999」の文字。

○廊下

ナイジェルが、摘み上げた黒いロボットを持っている。

腕のデバイスからルータの声。

ルータ声「ナイジェル危ない！」

ナイジェル「え？」

黒いロボットが急に動き出す。

ナイジェルが恐怖でロボットを放す。

ナイジェル「わあああああ！！」

研究室

ルータ「大丈夫か！？」

廊下

ナイジェルの周りをブンブン飛び回る殺人ロボット。

ナイジェルは頭を下げて両手を振り回す。

飛び去っていく殺人ロボット。通気口の中に入ってしまう。

ナイジェル「あ！ 通気口に逃げた！」

ルータ声「メタルゴライアスを！」

はっ、とナイジェル、廊下に転がるロボットを見る。

11.

○通気口

ルータ声「インターリンク！」

大型ロボットのメタルゴライアスが通気口のプラスチックを突き破る。

通気口を飛んで逃げる黒いロボット。

ドスドスとルータのロボットが追いかける。

黒いロボットが撃ってくる電撃を躲しながらタックルするルータ。

12.

○隣の部屋

タックルで通気口のプラスチックをブチ破り、隣の部屋に飛び込む2体のロボット。

ルータ「捕まえた！」

黒いロボットを捕まえたルータのロボットが、大きな手で黒いロボットを揺さぶる。

ルータ「このー！」

ルータ、パンチをしようと手を上げ、敵のロボットがもう動いていない事に気付いてその腕が止まる。

ルータ「ん？」

ケン声「そいつ、もう接続されてない！」

2体のロボットを巨大な影が覆う。

ルータ「え……」

見上げるルータのロボット。

ルータを見下ろす、接続用ヘッドセットを着けた男。

男の巨大な手で捕まえらるるルータ。

ルータ「うわあ！」

ルータを覗き込む巨大な顔。冒頭に出てきた研究員 A だとわかる。

小さいロボットを握る研究員 A。もう一方の手には黒いロボット。

研究員 A「糞ガキがチョロチョロと」

憎々しげにロボットを握り潰す。

巨大な手に押し潰されるルータ。べしっ、と首の関節が折れ曲がる。

ルータ「ぐはっ！」

研究員 A。電子レンジを開けて、中にルータを放り込む。

電子レンジを勢いよくボタンと閉じて、ツマミを回す。

研究員 A「邪魔されてたまるか」

電子レンジの中。

透明な戸に手をついて、外を見るルータ。

体から青白い電撃が出てくる。

バリバリとスパークが大きくなる。

ルータ「うっ、うう、うわあああああああ！」

ケン声「ルータ！」

関節や目から炎のように電撃が爆ぜ、爆発するメタルゴライアス。

13.

○廊下

ドアが開き、研究員 A が部屋から出てくる。

ドアの前にナイジェルが居て、驚く研究員 A。

恐怖ですくみあがるナイジェル。

不適な笑みを見せ、動けないナイジェルの肩をポンと叩く。

そのまますれ違い、去っていく研究員 A。

何もできずオロオロするナイジェル。

14.

○研究室

議論する 3 人。

ケン「まずい。殺人ロボットとテロリストが野放しだ！」

ナイジェル「どうしよう。早く誰かに知らせなきゃ！」

ルータ「お母さん、信じてくれるかなあ」

ケン「大人はみんな信じてくれなかったぜ」

顔を見合わせる 3 人。

15.

○道路

パトカーがサイレンを鳴らして走る。

16.

○社長室

最上階。

ルータの母と秘書や博士。準備中。みんなドレスを着ている。

ルータ母。窓の外が騒がしくなっているのに気づき、窓に近づく。

ルータ母「なにかしら」

窓の外。建物前にパトカーが止まっている。

ルータ母「えっ?!」

17.

○エントランスホール

太っちょの警官が少年たちの話を聞いている。

エレベーターからルータ母と秘書や博士が降りて来る。

ルータ母「いったい何事ですか？」

警官Aが反応。

警官A「ああ、親御さんですね。この子たちからテロリストがいると通報がありましたね」

ルータ母「ええっ?!」

ルータ「本当だよ！大統領が殺されるんだ！」

ケン「調べてたらみゃーこに食べられたんだ！」

ぐわおあお、とケンが両手で大きな口を表現している。何かを訴えるように指を指すルータ。うんうんと頷くナイジェル。

ルータ母が疑わしげに見る。

ルータ母「そんな事言って。また嘘ついてるんじゃないでしょうね？」

警察「また？」

ルータ母「ええ、去年なんて大変だったんです。血糊なんか使うものだから救急車まで来て」

警官「ああ、エイプリルフル」

ルータ「嘘じゃないよ！ほんとうだよ！」

博士が少年たちに視線を合わせて聞く。

博士「落ち着いて、何があったか教えてくれる？」

ルータ「見たんだ！僕たちのロボットが改造されて」

ケン「殺人ロボットだよ！」

研究員Aが通りががり、ナイジェルが反応する。

ナイジェル「あいつが犯人だ！」

驚く研究員A。ルータとケンも反応して一斉に指を指す。

ルータ「そうだよ！」

ケン「あいつだ！」

警官がルータ母に聞く。

警官A「失礼ですが彼は？」

ルータ母「うちの研究員です。昔からここではたらいでもらっています」

近づいてくる研究員A

研究員A「どうかしました？子供たちから僕の悪口でも聞きましたか？」

警官A「ええ。貴方が大統領を殺そうとしているテロリストだと」

ハハッ、と笑う研究員 A

研究員 A 「そうきましたか。いや、今朝僕の猫が彼らのロボットを食べてしまいましたね。それで彼等の恨みを買ってしまったみたいで」

警官 A 「なるほど。一応お部屋を調べさせてもらっても？」

研究員 A 「ええもちろん」

ルータがソワソワしながら指をさす。

ルータ 「ドールハウスの部屋だよ！ついてきて、こっち！」

18.

○ドールハウスのある部屋

ドールハウスを調べながら遊んでる警官 B

ルータ母に話す警官 A

警官 A 「見たところどこにも怪しいものはありませんね。彼も何も持っていませんでしたし」

ルータが焦った顔で訴える。

ルータ 「どっかに片付けたんだ！」

ケン 「そうだよ！小さいロボットなんだよ！どこでも隠せるよ！」

困った顔でルータたちを見る大人たち。

ルータ母 「いいかげんになさい。お巡りさんも困ってるじゃないの」

研究員 A 「まあまあ、子供のやる事ですし」

厳しい顔になる警官。

警官 A 「困りますな。お子さんには警察の仕事についてしっかり教育しておいていただかないと」

ルータ母 「申し訳ありません。私の方からきちんと言い聞かせておきますので」

ルータ 「そんな！」

待ってよ！となんとか引き留めようと少年たちがわちゃわちゃ動く。

警官A「では私はもう行きますよ。これから猛牛と戦わないといけないのでね」

警官B「ステーキを食べに」

去っていく警官たち。

ルータ母は腰に両手を当て、むっと怒った顔。

ルータ母「琉太」

ルータ「違うよ！ほんとうに見たんだ！」

ルータ母「もう研究室使うのは禁止です。ロボットも没収ですからね」

ルータ「えええっ!？」

少年たち3人、驚いた困った顔。

19.

○研究室 夕方

少年たち3人、落ち込んで沈んだ顔。

外は夕暮れになってる。

ルータ「……ほんとに大統領殺されちゃうのに」

むっとした顔でケンに苦言を呈するナイジェル。

ナイジェル「いつも嘘ばかりついてるから」

ケン「ちっ、ちが……今日がエイプリルフールのせいだし！」

ルータが時計見て呟く。

ルータ「みんな会食の会場行っちゃった……」

ケン「でもオレらなんもできないぜ。会場は入れないし。大人は信じてくれないし。ロボットは全部没収されちゃったし……」

ナイジェル「あれ？」

ナイジェルがはっと気づく。

目線の先にねこが、ねこ用トイレのそばを歩いている。

腕のデバイスで時計を見るナイジェル。

ナイジェル「そろそろ出てるんじゃない？」

眉をあげるルータとケン。

20.

○ねこのトイレ

猫が去ったトイレの遠景。

次のコマで集中線と共にトイレの砂にズームする。

次のコマでうんこにズーム。

次のコマで拡大されたうんこの近景。

次のコマで接近したリアルうんこ。

ルータ「インターリンク！」

次のページ。見開き大ゴマ1ページぶち抜きで、うんこの中からロボットが欠片を散らしながら飛び出してくる。カッコいい登場。

21.

○研究室

ヘッドギアを付けて寝てるルータ。

横でケンが椅子に座り、パソコンのモニターに指示を出す。

ケン「会場に着いたら大統領にルータを投げつけるんだ」

22.

○道路 夜

ナイジェルがBluetoothイヤホンでケンの指示を聞きながら、会場に向かって道を走っている。胸の前でロボットを持った手を握っている。

ケン「あいつより先に大統領の首を突っついて騒ぎを起こせばこっちの勝ちだ！」

ナイジェル「わかった！」

ナイジェルの手の中。

うんこまみれのロボットが遠くを見据えながら、先端にドリルのついた槍を握っている。

23.

○トイレ

ホテルのトイレの個室。

研究員Aが便座の上に立って、天井の換気口に暗殺ロボットを入れる。

24.

○会食会場 夜

お洒落なホテルの外観。暖かい色のライト。

外に黒いバンが停まっている。

ナイジェルが中に入り、会食会場のドアを抜けようとする。

そこに立っていた2人の黒スーツの男に止められるナイジェル。

S P 「おっと。招待状が無いと入れないよ」

困るナイジェル。

ケン声「だよな。隣の部屋の換気口から入ろう」

ナイジェル「と、トイレは……」

S P 「あそこだよ」

廊下の先を指さす SP

25.

○トイレ

トイレに駆け込むナイジェル。

個室に入り、便座の上に立って、衝立によじ登る。

天井の換気口にロボットを放り込むナイジェル。

ナイジェル「入った」

研究室

ケン「よし。隣の部屋の換気口から出るんだ」

ルータ「了解」

26.

○換気口

ルータ「見えてきた。もうすぐだ」

換気口の中を走るルータのロボット。

換気口から光が入ってきているの見える。

換気口のそばに黒いロボットが立っている。

ルータ「あ！あいつ！」

黒いロボットのアップしたコマ。

黒いロボット、換気口から飛び降りる。

ケン声「捕まえる！」

換気口目がけて走るルータのロボット。

ルータ「うおおおお！」

換気口から飛び降りるルータ。

空中で黒いロボットを捕まえる。

研究員Aの驚いた顔が、半透明のイメージみたく空中に出る。

研究員A「なにっ？！」

27.

○会食会場

広大な会場。遠くの方が霞んで見える。

眼下で山脈のように人がそびえる。

もつれ合って落ちていく2体のロボット。

黒いロボットが羽を動かして飛ぶのにルータがしがみつく。

峡谷のような人の間を飛ぶロボット。

研究員A声「離せこのっ！」

ケン声「絶対離すな！」

ロボット、豪華な料理の山やシャンパンのグラスの間を縫うように猛スピードで飛ぶ。

高度が上がり、大統領の方へ近づいていく。

座って料理を食べながらシェフと話している大統領。

ルータ「させるか！」

ルータのロボット、持っていた槍で黒いロボットの片目を刺す。

研究員A声「うわ！」

軌道が変わり、大統領の方向から逸れてく。

研究員A声「このお！」

ルータの頭にパンチする黒いロボット。

ルータが手を離れた槍が落ちていく。

前を向く黒いロボット。

肌色の壁に近づいていく。

研究員A声「！！」

黒いロボット。高度を急上昇させて、巨大な女性の顔にぶつか
らないギリギリのところで急旋回する。

ルータ母。

耳もとで鳴る「ぷうーん」という蚊のような羽音に顔をしかめ
て、手で耳の横を払う。

大岩のような巨大な手の一撃で弾き飛ばされた2体のロボット。

ルータ「うわあ！！」

巨大な人の首と顎の間をかすめ飛び、女性のドレスの肌けた胸
元にぶつかって止まるロボット。急傾斜を滑り、胸の谷間を落
ちていく。

ルータ「わああああ」

ケン声「ルータああ！！」

胸の谷間を抜け、服と肌の間を落ちていく。

空中で殴り合う2体のロボット。

黒いロボットのキックで、しがみついていた手を離してしまう
ルータ。

研究員A声「邪魔を！するな！！」

空中で電撃を発する黒いロボット。全身からバチバチと青白い
スパークが迸る。

ルータ「！！」

怯むルータ。

ドレスを着た博士。

嫌そうな顔で脇腹を搔く。

博士「（静電気痒っ……）」

突然迫ってきた壁に押しつぶされる黒いロボット。

研究員A声「ぐわあっ！！！」

壁が離れ2体とも落ちていく。

床に叩きつけられて弾むロボット達。

人間の脚が巨木のようにそびえる背景。遠くほど霞んだ表現。

ふわふわした絨毯の上に転がり、痛そうにギシギシと立ち上がる
ルータ。

黒いロボットも立ち上がる。

上を見上げる黒いロボット。

研究員A声「ふっ、これで……私の勝ちだ」

翅を動かして空中に浮かぶ。

ルータ「あぁっ」

飛び上がる黒いロボット。取り残されるルータ。

ケン声「ど、どうしよう。このままじゃ……」

ルータ「……電話しよう」

ケン声「えっ？」

ルータ「それしかない！」

ケン声「でも」

ルータ「お母さんに電話するんだ！」

28.

○会食会場

秘書、ルータ母に電話を差し出す。

秘書「お電話です」

電話に出るルータ母。

ルータ母「なあにケン。え？足下にルータが？」

博士、隣で電話しているルータ母を見る。

ルータ母「大統領暗殺？またそんな事言って」

電話を聞いていた博士が足元を見る。

ロボットが手を振っているのに気づきハッとする博士。

しゃがみ込み、ルータのロボットを手のひらに載せる。

博士「ルータくん？」

ロボットが手をパタパタさせ、大統領の方向を指し示す。

その方向を見て、またロボットに向き直る博士。真面目な顔。

博士「本当なのね？」

頷くロボット。

顔を上げて、ルータを持ったまま歩いていく博士。

29.

○大統領のテーブル

博士「大統領」

博士が近づいてくる。

SP がそれを止める。

SP「離れてください」

博士「大統領にお話が」

黒い羽虫のような影が大統領の方に飛んでいく。

博士、それに気づき押し入ろうとする。

SP 数人が慌てて博士を抑える。

博士、取り押さえられ、連れて行かれそうになる寸前、ロボットを大統領の方に投げる。

30.

○大統領のテーブル

スーパーマンのようなポーズで飛んでいくルータのロボット。

黒いロボットが、高速で飛んで向かってくるルータに気付く。

研究員 A「なにっ!？」

衝突する2体のロボット。

大統領の真上に落下する。

大統領のスープ皿にドボンと着水する。

粘性の高い液体の中で殴り合うロボット。

突然水面が持ち上がり2体ともよろける。

スプーンで掬い上げられたロボット。

スプーンの中で戦う。

他所を向いて話している巨大な大統領の顔の背景。

殴られたルータがスプーンのふちに倒れかかる。

研究員 A 「よくも邪魔をしてくれたな」

ルータの首を掴む黒いロボット。電撃が出る方の腕で殴ろうとするのを、顔のスレスレで受け止める。

腕から出た電撃が首元に近づいてくる。

ルータ 「くっ…」

スプーンが大統領の口元に運ばれていく。

研究員 A 「これでーーーー終わりだぁぁぁあ！！」

電撃の腕をもう一度振り上げる黒いロボット。

今だ！みたいなルータの目のアップ。

大ゴマ、ルータのロボットに付いていた溶接用の装備が、黒いロボットの腕を切り飛ばす。

切断された、注射器のついた腕が飛んでスプーンの外に落ちる。

ルータのロボットは電撃を食らって動かなくなる。

研究員 A 「はっ！」

上を見上げる黒いロボット。

大統領の口が迫る。

研究員 A 「うっ、うわぁぁぁぁあ！！」

洞窟のような巨大な穴に飲み込まれていくロボットの大ゴマ。

小さいコマで、スープをごくんと飲んだ大統領。

おっ、と眉をあげる。

大統領「独特な風味ですな」

横にいるシェフが、そうでしょうというような顔。

シェフ「隠し味にウコンを使っております」

31.

○黒いバンの中

バンの後部。

研究員 A「うわああああああ！！」

研究員 A の顔ドアップ。目を見開いて慌てて接続解除したヘッドセットを外す。油汗が出まくっている。

呆然とする研究員。髪の毛ボサボサ。（猫に食べられた直後のルータと同じコマ割り）

バンの後部ドアが開いている。

大勢の警察官に囲まれたナイジェルが、研究員を指差している。

ナイジェル「こいつが犯人だ！」

警官「取り押さえろ！」

連れて行かれる犯人。

警察官の 1 人がナイジェルに話している。

警官「その中継映像があつて助かったよ。君のおかげだ」

腕のデバイスを触わりながら照れるナイジェル。

後日。

ベンチの上でお大仰な手振りで熱く語るケン。

ケン「そこで注射器をジャキン！ぶっ壊して大統領に食べさせてやったのさ！」

ベンチの下に同い年くらいの女の子達が数人座ってケンの話を聞いている。

ケン「今も大統領が生きてるのはオレのおかげなんだぜっ。事件が起きたのは極秘だからニュースにはならなかったけどな！」

女の子達が信じてなさそうに笑いながらへえーと言っている。

それを離れて見ているルータと困った顔のナイジェルが話している。

ナイジェル「あんな言い方じゃ誰も信じてくれないよ」

ルータ「でも嘘じゃなくなっただけいいね」

目を細めて頬を掻くルータ、汗の漫付。

後ろを振り返ってカメラ目線になるナイジェル。

肩を竦めて「やれやれ」のポーズになる。

その顔だけ丸く囲って周りは黒くなる表現。

おしまい。